公認会計士法友会

公認会計士法友会会報

第35号
令和6年1月発行

令和5年度会員研修会・合格祝賀会開催のお知らせ

令和6年1月27日(土)に開催いたします。
・会員研修会　受付 15:30 ／ 開始 16:00 ／ 終了 17:00
　　演題「公認会計士・税理士のスタートアップ支援の心得について」
　　講師　石割 由紀人会員(1993年経営学部卒)
　　場所　法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎6階 S603
・合格祝賀会　受付 17:30 ／ 開宴 18:00 ／ 終了 20:30
　法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎6階 薩埵ホール
(会費)公認会計士　10,000円 ／ 試験合格者及び会計士補　5,000円

目次

会長挨拶 2
雑感 4
会費等納入の御礼 ／ 校友会終身会員所属変更 5
令和4年度公認会計士試験合格者の近況 6
令和4年度定期総会報告 7
法政士業の会だより 8
一般社団法人法政大学校友会の活動状況について 8
ゴルフコンペ 9
友好団体等への参加報告 9
編集後記等 12

同封物:会報、郵便口座振替用紙

会長挨拶

会長　太田荘一（昭和52年卒）

公認会計士法友会の会員の皆様、新年のご祝詞を申し上げます。各位の各分野でのご活躍をお慶び申し上げます。

また、令和6年石川能登半島地震の震災に際し、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。4年以上に渡り大変な年が続きましたが、皆様にはお変わりございませんでしょうか。2024年が皆様にとりまして明るく輝かしい年でありますことを祈念申し上げます。

会員の皆様には、いつも多大なるご支援とご賛同をいただき、誠にありがとうございます。毎年貴重な浄財をご寄附いただいている会員の皆様方には、誠に感謝に堪えません。本当にありがとうございます。

おかげ様をもちまして、法政大学の内外における公認会計士法友会のプレゼンスを維持できていますのも、会員の皆様方のご尽力とご協力の賜物であると、役員一同を代表いたしまして深く感謝申し上げます。

現役員体制で9年目となりますが、法友会の目的である『会員の相互交流・親睦を深めるとともに、母校の発展と後進の育成に貢献する』に基づき、新しい若い世代の会員への橋渡し役になるべく、河西事務局長はじめとする役員の方々の精力的なご対応とご協力を受けながら、なんとか務めさせていただいております。ここにきてやっと皆様との対面での懇親ができるようになりましたが、引き続きオンライン会議等での役員会活動は継続しており、今後は、対面での研修等のイベントも積極的に企画していきたいと考えておりますので、会員の皆様からのご指導ご鞭撻のほど、なにとぞお願い申し上げます。

今回も、最近の法友会活動についてのご報告を中心に、今後の活動方針を述べさせていただきたいと思います。

＜活動方針＞会員の相互交流と親睦を深める

【令和5年度公認会計士試験合格祝賀会の開催について】

・令和5年11月に令和5年度の公認会計士試験の最終合格者の発表があり、法政大学からの合格者は38名（令和5年12月末現在）と、前年度（28名）よりも10名も増加しました。全国大学ランキングも第9位ということで、3年ぶりにトップ10に返り咲きしました。さらに現役学生からは年を追う毎に相当数の合格者を輩出し、特に今回は、3年生からの合格者が9名もいるのは、指導にあたられた先生方や高度会計人育成センターの関係者のご尽力と合格者の皆さんの努力の賜物かと思います。今後益々の合格者の増加を期待して、来年度もトップ10はもちろん、さらに上位を目指していただきたいと思います。

・令和5年度公認会計士試験合格祝賀会は、令和6年1月27日（土）に4年振りに大学内（外濠校舎薩埵ホール）で開催いたします。是非、先輩諸氏の皆さんで盛大に合格者の門出をお祝いし、激励していただくことを期待しております。

・昨年の合格祝賀会には、多数の若手会員にも参加いただきました。今回もより多くの若手会員の参加を促進するため、これまで20社以上の上場支援の実績をもつ石割由紀人会員（1993年卒）を講師に迎えて「公認会計士のためのスタートアップ支援」の研修会を企画しております。（開催の詳細は、表紙参照。）

しばらくの間、大学に行ったことのない方には、市ヶ谷キャンパスの変貌ぶりに吃驚されると思います。是非、早めに行って学内見学してください。

＜活動方針＞活動を通じて、母校の発展に貢献する

【法政士業の会活動への参画について】

・法政士業の会（後掲の活動報告記事参照。）の大学連携事業活動として、大学リカレント教育オフィスの公開講座「市民のための法律教養講座『相続問題の基礎知識』」を企画し、各士業団体から相続を専門とする士業の講師6名が春学期3回、秋学期3回開講しました。（詳細は大学HPリカレント教育を御覧ください。）なお、講師料相当額は全額を大学のLU募金（経済困窮学生支援）に寄付させていただきました。また、当該活動は、法政大学の「自由を生き抜く実践知大賞」の特別賞「卒業生からの継承賞」として表彰されました。（大学HP参照。）

・今回は、公認会計士法友会からの講師はなく企画担当でしたが、次年度以降の継続開催予定ではビジネスパーソンを対象にしたテーマ企画を検討しており、当会からもテーマを専門とする講師を出したいと考えておりますので、会員各位におかれましては、是非とも積極的にご協力のほどお願いいたします。

【校友会活動への協力について】

・令和5年11月開催の「全国卒業生の集い倉敷大会」には、公認会計士法友会からは、全国から毎回参加される尾町雅文会員（1976年卒宮城県校友会会長・校友会理事）、北村敏雄会員（1968年卒新潟県校友会）と飯塚昇会員（1974年卒校友会監事）（写真参照。）と共に参加して参りました。（後掲の活動状況報告記事参照。）

・式典当日の午前中に開催された法政士業の会による地元卒業生等を対象にした「よろず無料相談会」にも山田努会員（1984年卒）と太田が参画しましたが、公認会計士の相談

ブース（上場準備、経営戦略等）には今回も相談者はありませんでしたが、同相談会は今後も継続して開催が予定されていますので、会員諸氏には是非ご協力のほどお願いいたします。。
・次年度の「全国卒業生の集い秋田大会」は、既に開催日程（2024年10月26日式典）が決定しておりますので、会員の皆様には（特に東北地区の会員の皆様には）是非とも奮ってご参加いただければと思います。
・また、新年の恒例行事である「2024年オール法政新年を祝う会」は、今年もホテルでの開催（2024年１月28日（日））が予定されております。会員の皆様におかれましては是非とも参加されて、大いに法政OB・OGの校友の連携を図ろうではありませんか！！

＜活動方針＞後進の育成を支援する

【会員寄付の拡充と本学受験生への「奨学支援金」について】
・法友会として、今後、特に注力していきたい活動といたしましては、会員の皆様からのご寄付浄財をいかにして拡充していくかという課題に対する対応です。法友会活動は会員の皆様からの会費・寄付金の浄財により成り立っています。昨今、会員の高齢化とご寄付賛助者数の減少により、当会の財政収入にも少なからず影響が出ております。
・一方、活動の範囲はますます拡大しており、特に、６年前に創設し給付を継続しております本学学生に対する公認会計士試験受験生のための「奨学支援金制度」につきましては、嬉しいことに、その成果が年々目に見えて来ております。
・令和5年11月に、高度会計人育成センターが主催する学内簿記チャンピオン大会（詳細は後掲の参加報告記事参照。）において、公認会計士法友会からの奨学支援金として、成績優秀者6名に受給資格証を付与（短答式受験を条件に使途を専門学校の受講費充当に限定して5万円を給付するもの）いたしました。
・当該「奨学支援金」は、これまでの5年間で28名に給付し、うち17名が最終合格しており、受給した学生の合格者数及び合格率は非常に高いものとなっております。法友会としては、これを継続し、さらに充実したものにしていきたいと考えております。このための原資として会員の皆様方からのご寄付浄財が不可欠でありますので、なにとぞご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
・今後も、高度会計人育成センターと協力して、受験生の増大及び合格者増加のための諸施策を支援していきたいと思います。

【法政大学出身の合格者増大のための諸施策について】
・付属校の内部進学生を対象にした公認会計士制度説明や職業の魅力の紹介等の啓蒙活動を推進しております。合格者数上位の大学は、付属校と大学との連携により、高校生のうちから公認会計士試験合格のための教育課程や職業啓蒙活動が進んでいると聞いております。法政大学においては、現在、法政中高（旧一高）や法政国際高（旧女子校）では、「簿記・アカウンティング」受講者が毎年増加しており、大学進学後の合格者も増加していると伺っていますので、これらの好例を他の付属校にも拡充することを推進し、当会においては、公認会計士の職業の魅力を啓蒙する活動を拡充したいと考えています。
・これらの活動が近い将来、後進の会員各位がそれぞれの得意専門分野や出身高校毎に対応できるよう、そのレールを敷設することが現役員体制の使命と考えます。

【定期総会の開催と役員改選について】
・今年度の定期総会は、４年振りに対面で2023年９月にボワソナード・タワーの会議室で開催いたしました。（詳細は、後掲の報告ご参照。）総会後の会員研修会は、当会和食克雄顧問の講師による「士業による企業の社外役員の実務対応と勘どころ」というテーマで、講師の長い実務経験とご見識に基づいた貴重なお話をいただきました。また、その後の懇親会には、来賓として法政大学経営学部の神谷健司教授、校友会の石渡洋行副会長に、それぞれご挨拶をいただきました。（表紙の写真ご参照。）また、高度会計人育成センター副センター長の岸教授、友好他大学から多数ご臨席いただいた会計士団体の会長、副会長、法政士業の会の役員諸氏も交えて、久々に会員相互の懇親を深めることができました。
・なお、役員体制も9年目に入りましたが、今回の改選でも、ほぼ全員の再任の承認をいただきましたが、大手監査法人所属の若手会員からの新副会長として倉持直樹会員（1992年卒）を会員懇親担当として登用させていただきました。
・背景としましては、各大手監査法人所属の現役役員が定年等を迎えていることから、監査法人所属の若手パートナーを役員に登用するものです。今後益々の若手会員の参画を期待しておりますので、会員各位にはよろしくご協力のほどお願いいたします。

【最後に】
・会計士業界も業務のDX化や人的資本に関する開示やサステナビリティ関連情報の統合報告に対する監査等、新しい課題が次々と出てきますが、これらを好機にして、法政大学からさらに多くの公認会計士を輩出し、将来のある若い皆さんが活き活きとして集い結べる業界・魅力ある士業となるよう、法友会としてもまだまだやることはたくさんあります。
・昨今、経済界は人材不足で学生の売手市場の状況が継続しており、公認会計士試験受験を目指す学生も思ったようには増えていませんが、今年も38名の試験合格者が輩出され、当法友会にも多くの新しい仲間が増えます。
　１月の合格祝賀会には、毎年参加されている会員諸氏におかれましては勿論、しばらくご無沙汰しております会員の皆様にも是非ともご参集をいただき、「法政、我が母校♪」と声高らかに校歌をご一緒しましょう。

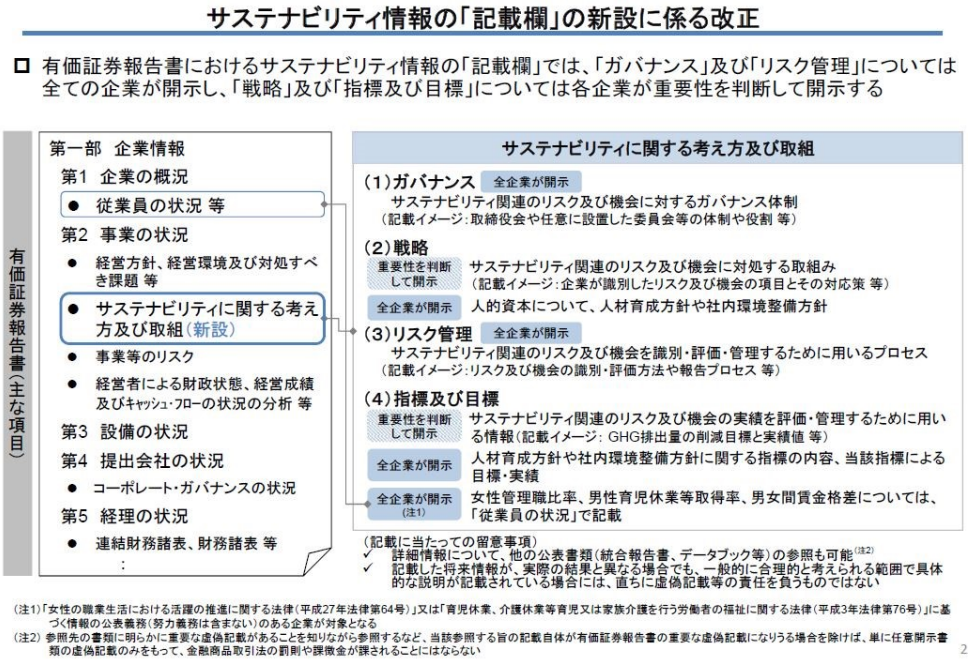
「フレー！！フレー！！法政、 ガンバレ！！ガンバレ！！法友会」

雑感

小倉　加奈子（昭和63年卒）

非財務情報の重要性

昨今、上場会社においては財務情報だけではなく、非財務情報が企業価値に及ぼす影響の重要性がとりあげられている。非財務情報の開示については欧州が先行してきたのであろうが、日本もそれに遅れないようにということで、金融庁は2023年 3月期の有価証券報告書からサステナビリティ関連情報の項目を設けて上場企業に開示を求めている。非財務情報は一般に環境(E: Environment)、社会(S: Social)、ガバナンス(G: Governance)といわれるが、特に環境に関しては、最近の各地の異常気象をみても、企業だけでなく一人一人が環境への負荷の削減に取り組まないと将来の地球はどうなってしまうのかと本当に心配になる。



出典：金融庁「企業内容等の開示に関する内閣府令等改正の解説」
https://www.fsa.go.jp/news/r4/singi/20230523/01.pdf

女性活躍推進

非財務情報のうち、日本は特に女性活躍推進に関連する項目についての開示に力をいれている。具体的には、女性活躍推進法又は育児・介護休業法に基づき、女性管理職比率、男性の育児休業等取得率及び男女間賃金格差の公表を行う企業は、上述の通り、2023年3月期の有価証券報告書において開示が求められることとなった。なお、上場企業の取締役における男性、女性の人数は既に2015年3月期の有価証券報告書から記載を義務付けられている。コーポレートガバナンス・コードにおいても「取締役会は、その役割・責務を実効的に果たすための知識・経験・能力を全体としてバランス良く備え、ジェンダーや国際性、職歴、年齢の面を含む多様性と適正規模を両立させる形で構成されるべきである。【原則４－11. 取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件】」とされており、多様性が企業価値の向上に影響するという考え方が示されている。

さらに、上場会社に対する議決権行使助言機関の１つであるISS（Institutional Shareholder Services）は、取締役会の多様性として、取締役会に女性取締役が一人もいない場合は、経営トップである取締役に対して反対を推奨する基準を、2023年 2 月から導入することを表明している。同機関によれば、日本においてジェンダー・ダイバーシティが重要な課題となり女性取締役を採用する日本企業が増え、取締役会に女性取締役がいる日本企業の割合は 2022 年 6 月には 63.4%となったとのことである。人口における男女の比率はほぼ同数であることを鑑みれば、ビジネスを発展させる上でも女性の意見に耳を傾けることは必然ではなかろうか。

公認会計士業界における女性活躍比率

公認会計士業界においても上場企業と同様に女性活躍比率が重要指標として掲げられている。
・2048年度（公認会計士制度100周年）までに会員・準会員の女性比率を30%へ上昇させる

・2030年度までに公認会計士試験合格者の女性比率を30%へ上昇させる

さて、現状はどうか。
2022年12月末の女性比率は次の通り。

	会員	準会員	総数	試験合格者2023年
総数	34,389	6,481	40,870	1,544
うち女性	5,161	1,404	6,565	345
比率	15.0%	21.7%	16.1%	22.3%

出典：日本公認会計士協会「女性会計士活躍促進協議会の取組について」
https://jicpa.or.jp/cpainfo/introduction/cpa_women/about/

準会員の女性比率が高まっているが、30%達成にはもうひと努力が必要そうである。日本公認会計士協会のHPでは年齢層ごとの女性比率もグラフで開示されており、それによれば、次のとおり、50歳代を越えると15%台以下になってしまう。

50～54歳　15.2%
55～59歳　14.0%
60～64歳　10.9%

これは女性の大学進学率にも影響を受けているのではないかと思い、調べてみると、平成元年（1989年）の大学進学率は、男性 22.9%に対し、女性 13.0%と男性の約半分である。これに対して令和 3年（2021年）の大学進学率は、男性 54.3%に対し、女性 51.6%とほぼ同水準となっている。大学進学者のうち会計専攻の学生が男女同数であれば、いずれは女性比率 30%も達成されるのではないかと考える。

女性活躍についての雑感

大学の時の体育で空手を専攻した。武蔵小杉のグラウンドに2週間に一度くらい通ったような記憶である。空手が好きだったわけではなく、抽選で選択することになったのではないかと思う。空手の先生は、恰幅がよく姿勢のピンとした初老の方だった。どのような場面かおぼえていないが、先生が「次に戦争があったら女に行ってもらうからな」と言われたことを今でも覚えている。2022年からのロシアのウクライナ侵攻や2023年のイスラエルの紛争などのニュースで、息子が戦死した母親の映像が流れると見ていて胸が痛くなる。企業活動だけでなく、女性の活躍が一層進み、二国間紛争は女性が武力によらない戦いで解決するような時代とならないだろうか。

会費等納入の御礼

令和5年度（2023年9月29日まで）に会費・寄付等を頂いた方は以下の通りです。皆様、どうもありがとうございました。

（50音順、敬称略）

飯塚　昇	五十嵐　正明	石川　亜依	石川　正敏	石出　康子	梅村　一彦	太田　荘一	太田　眞晴	柿沼　幸二
金子　祐大	神谷　佑樹	河合　三彦	川崎　定昭	河西　正之	北村　敏雄	君和田　和子	黒田　學	木暮　友喜
小林　保弘	佐藤　康平	東雲　達哉	柴田　匡司	杉本　喜代美	鈴木　一功	髙橋　和司	竹澤　隆国	舘内　宏宣
堤　研一	遠山　景一	豊島　忠夫	中山　理恵子	西澤　利雄	藤田　利弘	藤原　明	古川　直磨	細越　善次郎
校條　太郎	矢部　豊	山本　成男	山本　成男					

また、定期総会に参加いただいた方は以下の通りです。皆様、どうもありがとうございました。

（50音順、敬称略）

渥美　龍彦	飯塚　昇	石川　正敏	伊藤　章子	鵜藤　葉子	梅村　一彦	太田　荘一	大野　厚夫	大谷　はるみ
越智　一成	小野　隆良	河西　正之	岸野　勝	倉持　直樹	小場　貴之	酒井　宏暢	佐竹　健二	中村　里佳
西浦　正和	橋爪　宏徳	春山　直輝	古田　十	牧野　智成	三浦　太	矢田堀　浩明	吉田　実貴人	和食　克雄

校友会終身会員所属変更

令和4年4月に年度同期会からの所属変更をしていただいた方は、以下の通りです。どうもありがとうございました。また、掲載が遅れ申し訳ありませんでした。

（敬称略）

染谷　哲郎

令和4年度公認会計士試験合格者の近況

合格者の近況を報告していただくコーナーです。

●校條　太郎（令和5年卒）

▼ご挨拶

法友会の皆様、はじめまして。令和4年度試験合格の校條太郎と申します。私は2019年4月に経営学部経営学科に入学し、2023年3月に卒業しました。大学では会計学はもちろんのこと、マーケティング論や人的資源管理論など、経営学を幅広く学びました。また2年間、スーパーマーケットでレジのアルバイトをしておりました。

最近は車で海に行き、釣りをしております。晴れて社会人になり平日は仕事で終わってしまうので、貴重な土日ですが、糸を垂らすだけで終わってしまいます(=1匹も釣れないことが多いです…)。

皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

▼公認会計士を志したきっかけ

私が公認会計士を知ったのは大学1年生の時です。大学の入学オリエンテーションの際に、簿記の課外講座の案内があり、同時に公認会計士についての紹介がありました。そこで、「会計のない会社はない」ということを知り、会計に大変魅力を感じました。実際に公認会計士試験に挑戦することを決めたのは大学2年生の2月であり、コロナウイルスの流行で先行きが見えない時期で、何か自分の強みが欲しいと思っていました。コロナ渦で活動が制限される状況が長く続き、漠然とした不安がありましたが、この時に試験への挑戦を決心して本当に良かったと思います。ピンチはチャンスだと改めて実感しております。

▼受験勉強について

私は学内の提携講座に申し込み、学習しておりました。上記と重複しますが、試験勉強を開始したのは大学2年生の2月で、すでに講座は開講されており、遅れてのスタートでした。そのため、リアルタイムの講義には参加できず、e-learning形式でしか受講できませんでした。孤独な戦いとなり、不安もありましたが、実際に学習を進めていくうちに自分なりの勉強スタイルができ、結果的にe-learning形式は自分に合っていると思いました。リアルタイムですと講義の時間が決まっており、また聞き逃してしまうこともあるかと思いますが、この点、e-learningですと自分の好きなタイミングで、また好きなだけ講義を視聴することができるので、とても便利です。ただ、人の目もなく、気が抜けてしまうのでデメリットもあります。私の場合は、模試や答練だけは予備校の自習室で解くなど、時々、学習環境を変えてリフレッシュしていました。

今となっては椅子に座り、テキストを机に広げ、電卓をたたく機会はほとんど無く、勉強する気力がなかなかありませんが、仕事でわからないことが多く、少し焦りを感じているところです。もう一度、勉強する習慣をつけたいです。もうすでに修了考査に怯えております。

▼監査法人での勤務

私は有限責任監査法人トーマツに入所しました。金融事業部に所属しており、普段は銀行監査に携わっております。銀行業は一般の事業会社とは違い、法規制や業界特有の取引等が多々あり、分からないことだらけで大変苦労しています。なぜ、このような金融事業部を希望したかというと、プラスアルファの専門性を身につけたかったからです。どの業界でも専門性を身につけることはできるかと思いますが、金融は政治経済や国際関係、私生活等と密接な関係があり、様々な場面で応用できると考えました。

忙しくて嫌になることもありますが(大変ありがたいことですが…)、四半期に1回の頻度で出張に行く機会があり、そこでご当地のものを食べたり、街を歩いたりして、気分転換しております。首都圏にはない珍しい商品や地元のお客さんでにぎわう商店街があり、とても魅力的です。もちろん仕事で出張に行っていますので、観光まではできませんが、「仕事頑張ろう」という気持ちになります。機会があれば、ぜひプライベートでも足を運びたいと思っております。

▼おわりに

この度は会報への寄稿の機会をいただきましてありがとうございました。働き始めてから10か月が経過し、2回目の繁忙期を迎えようとしています。来年の目標は前年よりも成長したと感じられるように、日々の業務に取り組むことです。まだまだわからないことだらけですが、自己研鑽に励みたいと思います。未熟者ではありますが、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。法友会の皆さまとお会いできることを心待ちにしております。

令和4年度定期総会報告

事務局より

令和4年度の定期総会を対面で9月6日に開催しました。概要を報告いたします。

1.会員数の推移

過去10年間の会員数は以下の通りですが、公認会計士法友会に参加の意思を表示しない・参加しないと意思を表示した人は累計で190名になっています。若手会員の活動をより活性化して周知し、参加を促す必要があります。

H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
667	683	699	720	715	740	762	759人	772人	786人

なお、令和4年度の公認会計士試験合格者のうち、法友会に加入の意思を表明した人は、令和5年6月13日現在で16名でした。

2.後進の育成のための高度会計人育成センターとの連携

「会長挨拶」をご覧ください。

3,会費納入状況について

多くの会員の皆様から、年度会費、年度寄付金のご協力をいただきました。誠にありがとうございます。

（単位：千円）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
会費・寄付金総額	2,411	2,306	2,253	2,944	1,505	1,366	2,086
終身会員登録会費	―	―	―	△940	―	―	―
差引	2,411	2,306	2,253	2,004	1,505	1,366	2,086
支出	2,336	2,043	2,069	1,949	1,047	736	1,426
収支差	85	263	184	55	457	629	659

校友会の終身会員登録のために、特別に寄付をお願いした影響を除くと、年平均1,900千円の会費等を納入いただいています。今年度は、合格祝賀会を開催できた状況ではありましたが、会員の皆様から多額の会費・寄付をいただきました。ありがとうございます。

しかし、今後も、奨学支援金支出の増加、合格者の増加等に対し、経費支出を抑え、収支差を均衡させていきますが、財政は厳しい状態となることが想定されます。。

引き続き、より多くの会員の方からの会費の納入と経費節減を合わせて行う必要があると考えています。

4.決算・予算概要

今年度も、会員の皆様から多額の会費・寄付をいただきました。ありがとうございました。

①収入実績

会費・寄付金は、合格祝賀会が参加人数を絞っての開催となったものの、会員の皆様からの多額の会費・寄付をいただいたことによるものです。

②支出実績

総会・祝賀会開催費用は、合格祝賀会が参加人数を絞っての開催となったこと、合格者が予算作成時の想定より減ったことから、予算比で減少しました。

終身会員登録は、今年度は行いませんでした。

その他は、他大学の公認会計士会では、懇親会が開催されなかったこと、卒業生合格者の人数が当初想定よりも少なかったことによるものです。

上記の結果、収支差額は659千円のプラスとなり、資金残高は3,447千円となりました。

③予算概要

今年度は定期総会を対面で開催し、合格祝賀会も対面での開催を予定するため、これらの参加費収入・関連支出を計上しております。

昨年の校友会寄付金の残金を活用して、校友会終身会員登録を若干名行う予定です。

決算・予算概要(単位：千円)	R4年度予算	R4年度実績	R5年度予算
会費・寄付金	2,116	2,086	2,600
校友会（合格者お祝い金）	450	210	450
収入合計	2,566	2,296	3,050
総会・祝賀会開催費用	1,530	830	1,700
終身会員登録	150	－	－
奨学支援金	350	300	350
その他	800	507	760
支出合計	2,830	1,637	2,810
収支差	△264	659	240
前期繰越	2,727	2,727	3,447
未払金	―	59	△59
次期繰越	2,463	3,447	3,627

以上

法政士業の会だより

山田　努（昭和59年卒）

和食会長再任、太田さんは理事から副会長に昇格

法政出身の公認会計士・弁護士・税理士・不動産鑑定士・行政書士・司法書士・中小企業診断士の7専門士業が中心となって活動している法政士業の会は2016年11月の設立から7年が経ちました。2023年の活動を振り返ります。

（第6回定時総会）

2023年12月16日に第6回定時総会をアルカディア市ヶ谷で開催しました。定時総会には約50名（うち公認会計士14名）が出席し、当会の和食顧問が法政士業の会 会長に再任（任期2年）され会長2期目に入られることになりました。また、太田さん（当会会長）は、理事から副会長への昇格が承認されました。定時総会終了後に、不動産鑑定士橙法会 副会長の石丸和宏先生に「ここがポイント不動産鑑定」の講演をいただき、夕方からは懇親会・情報交換会を開催して各専門士業の交流を深めました。

（全国卒業生の集い 倉敷大会でのミニセミナー・お困りごと相談会）

2023年11月3日から5日に開催された第29回法政大学全国卒業生の集い 倉敷大会において、法政士業の会は、ミニセミナーとお困りごと相談会を実施しました。中小企業診断士オレンジ会 会長の内藤博先生が「いちばんやさしい事業承継セミナー」の話をされて、法政大学 廣瀬克哉総長や法政大学校友会 竹中宣雄会長もお忙しい中にもかかわらず会場にお越しいただいてセミナーの様子をご覧いただきました。

みなさまは多摩キャンパスの図書館の5Fにある法政大学大原社会問題研究所をご存じでしょうか？ 実はあの有名な大原美術館とともに「大原孫三郎関連施設・機関ネットワーク」（大原ネットワーク）のメンバーを構成していることを今回の倉敷大会で知りました。倉敷紡績創業家の大原孫三郎氏が社会貢献として立ち上げた美術館や病院など数ある事業のうちの1つを法政大学が事業承継したという縁を廣瀬総長からお聞きし、さらに事業承継においては専門士業に相談することが有益であり法政には法政士業の会があるというお話しまでいただき、とてもうれしく、また、気が引き締まる思いでした。

コロナの影響も落ち着きましたので、2024年は和食会長のもと対面での役員会を再開し大学連携・校友会連携・会員間連携などの活動を拡充していく予定です。みなさまにも積極的なご参加・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人法政大学校友会の活動状況について

飯塚　昇（昭和49年卒）

法政大学校友会は、一般社団法人に移行して10年目となり、竹中宣雄会長のもとで執行部による校友会運営全般の見直しが進められています。

その主たるものとしては、1. 年度同期会からのパートナー組織への移籍ルールの緩和、2. 女性活躍推進、3. 現役学生への貢献施策、4. 校友会の会館施設の在り方の検討などが挙げられます。（校友会報第20号・2024、1発行を参照）

このうち「4. 校友会の会館施設の在り方の検討」について、若干の説明を付け加えさせていただきます。

校友会館建設資金として、毎年、卒業生から大学が代理徴収する終身会員収入180百万円（卒業生6千人×3万円として）の65%を、三者共同委員会（大学、後援会、校友会）の管理下で積み立てることとされており、令和5年3月の貸借対照表では1,111百万円となっています。

しかし、校友会館の建設には多額の資金が必要であり、その管理・運営には多く問題解決が必要となることなど、現況とパートナー組織へのアンケート結果を踏まえて、校友会館の建設ではなく、校友会館の機能を有する施設を建設することについて検討が行われています。

さて、校友会の3大イベントの「第29回法政大学全国卒業生の集い　倉敷大会・令和5年11月」に、太田荘一会長、山田努副会長、北村敏雄会員（昭和47年卒）、尾町雅文会員（昭和51年卒）とともに出席いたしました。

会場は「倉敷アイビースクウェア」で、当時の倉敷紡績所本社工場を再開発した複合文化施設でした。

同施設内にあった倉紡記念館に創業当時の文書類が展示されており、会社設立関係書類（定款、株券、株式台帳など）、会計関係書類（会計伝票、会計帳簿、得意先一覧表など）、規則関係書類（営業規則、職工規則など）、不動産登記関係書類などがありました。

明治維新後、20数年で今とほぼ同じ経営管理基盤の法整備と運用がなされているのに、太田会長も私も驚きを感ぜざるを得ませんでした。

ゴルフコンペ

石川　正敏（昭和58年卒）

第36回CPA十月会コンペのご報告

10月9日（スポーツの日）に、茨城ゴルフ倶楽部にて、開催されました。生憎の天候でしたが、着座形式の懇親会・表彰式も行う5年ぶりのフル企画コンペとなりました。

今年より大会ルールが変更され、10人以上の参加校は2チームに分けての参加となり、前年及び前々年の優勝校も優勝権利が与えられることになりました。

今年の優勝校は2000年以来の一橋大学、個人優勝は慶応大学の小坂義人氏でした。一橋大学は6名という少数参加でしたが、個人ネット成績で2，4，5位を占める素晴らしい成績（新ペリアなので強運を発揮）でした。我が校は、残念ながら、5位／12校でした（2位から5位までの4人の合計スコアが1．2打差と、かなりの接戦でした）。小生のハンディキャップが参加72人中、2番目に少ない4.8と、残念ながら運に恵まれませんでした。

第20回法友会ゴルフコンペのご報告

上記、十月会に先立ち、同コースにて「第20回法友会ゴルフコンペ」を10月4日に開催いたしました。法友会コンペに初参加の森口輝来会員が準優勝（ネット1位でしたが、自己申告ハンデによる初参加のため準優勝に繰下げ）、優勝は小生となりました。

コロナによる自粛も終わりましたので、来年以降も引続き開催したいと思います。法友会コンペはハンディキャップ方式のコンペですが、1位・2位に入賞しなかった方はハンデが1打ずつ増えていく方式を取っていますので、参加回数が多いほど、入賞の可能性が増えていきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

第22回オール法政ゴルフ大会「総長杯」のご報告

2023年9月4日（月曜日）キングフィールズゴルフクラブ（支配人が法政出身）にて、校友会主催による大コンペがゴルフ場貸切で開催されました。

生憎の天候でしたが、朝から法政大学校歌がゴルフ場に響き渡り、廣瀬総長も懇親会にご参加され、盛大に開催されました。

法友会からは、4名のメンバーが参加し、懇親を深めました。

ゴルフ関係の、ご参加申込、お問い合わせは下記まで。
eメール：ishikawa@aiwa-tax.or.jp
FAX：03-5715-3318（あいわ税理士法人　石川正敏宛）

友好団体等への参加報告

●公認会計士稲門会　河西正之（平成元年卒）

令和5年7月5日に開催された公認会計士稲門会（早稲田大学）の懇親会に太田会長と参加してきました。稲門会には、初めての参加です。参加人数は、全体で40・50名ぐらいで、うち来賓・教授が20名ぐらいでした。あまり若手の姿が見えないのは、どこも同じようです。

新型コロナで懇親会の開催自体が久しぶりとのことでした。

稲門会では様々な取り組みをしているようで、印象に残ったのは、留学生奨学金を32年間の累積で約6,000万円、122名に支給していること、部会が設けられており、それらがきちんと活動していると思われること、の2つです。

我々も奨学支援金の支給を行っていますが、稲門会は1人当たり50万円と我々の10倍ぐらいの規模となっています。留学生の支援ですので、用途が違うことを考えても金額が大きく異なるのには驚きました。母集団となるCPAの数が大きく違うことも要因と思いますが、すごいことですね。

また、合格者数ランキングの話題も出て、50年間ずっと2位とのことでした。（写真は、左から、太田会長、稲門会の杉田会長）

●法政司法書士会定時総会懇親会参加報告　太田荘一（昭和52年卒）

近年にない猛暑日が続く2023年7月29日（土）に学士会館で行われた法政司法書士会定時総会懇親会に、参加出席して参りました。法政司法書士会は5年前に設立された法政士業の会の構成団体ですが、早慶、中央、日大等近隣の他大学の司法書士会、また、東京司法書士会の役員や関西大学の司法書士会からも参加され、外部との連携関係を強く感じる懇親会であり、非常に参考になりました。4年ぶりの対面開催ということで、2時間にわたる懇親の最後に参加者全員で校歌斉唱とエールを送りました。フレー、フレー、法政司法書士会！！

●公認会計士会白門会　山田　努（昭和59年卒）

令和5年7月5日（水）に中央大学駿河台キャンパスにおいて公認会計士会白門会の令和4年度講演会・懇親会があり、公認会計士法友会から春山副会長と山田が出席して参りました。中央大学の伝統の地・神田駿河台にあった駿河台記念館（実務補習でお世話になった方も多いと思います）が建て替えられて、令和5年4月から駿河台キャンパス（20階建て）として生まれ変わりました。

講演会の前に行われた定期総会では北方宏樹会長から山田治彦新会長へのバトンタッチが承認されたとの報告がありました。北方さんは監査法人時代の仕事仲間なので在任中に白門会に伺うことができて個人的にはよかったです。

講演会は18階会議室にてJICPA茂木会長を講師に招いて公認会計士法改正や最近の協会の会務・取組のお話を伺いました。多数の重鎮の方々（JICPA元会長など）を前にして「話しづらいなぁ」と仰られながらも裏話も交えながらわかりやすくご説明をいただきました。

懇親会は19階カフェテリアに場所を移して、多数の出席者が和やかに旧交を温められていました。山田新会長が閉会の挨拶として「他校も同じ状況だと思いますが、若い人たちの参加が少ないので、業界発展のために若い人たちの参加を広げていきたい」と仰られていたことは各校共通の課題であり、大学間連携も深めながら課題解決を考えていきたいと思いました。（写真は、左から山田（法友会）、大久保さん（白門会・トーマツCEO）、茂木JICPA会長（三田会）、北方さん（白門会・前会長）、春山さん（法友会））

●明治大学公認会計士会　河西正之（平成元年卒）

令和5年7月21日、明治大学公認会計士会に太田会長と参加してきました。4年ぶりの懇親会開催とのことで、あちこちで話の輪が盛り上がっていました。

兼山会長からは、JICPAのブランディング戦略の他、マンドリンクラブから初の公認会計士試験合格者が出たとのことでした（当日の演奏者の中にいたようです）。練習の合間の勉強は大変だったろうと思います。

さて、明治大学の財務担当役員、監事を、明治大学公認会計士会から継続的に輩出しており、それはいまも続いているとのことでした。

また、公認会計士試験合格者ランキングでは、明治大学は3位で86名、例年70名前後の合格者を出しています。これだけの合格者を出すためには、それなりの受験者数を確保しなければならないわけですが、高校生のころから公認会計士試験を受けるように導いているとのことでした。法政でも取り組めそうですが、そういう取り組みをする人的リソースはなさそうだな・・・・と感じた次第です。

ちなみに、個人的な一番の収穫は、芸能人の北野武さんのお兄さんが校友会の会長をされており、名刺交換と話をしたことでした・・・・。（写真は、左から、太田会長、明治大学公認会計士会の兼山会長）

●青学会計人クラブ　河西正之（平成元年卒）

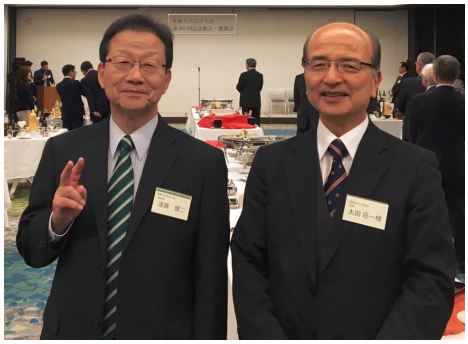
令和5年7月28日（金）に青学会計人クラブ懇親会に参加してまいりました。表参道にあるキャンパス内に設置されている茶珈堂（Cha Cade do）で行われ、場所柄（？）なのかおしゃれな感じでした。

参加人数は30人ぐらいといった感じで、参加会員、来賓も税理士の人が多い印象でした。若手の参加は若干名といったところでしょうか。新会長として岩田篤さんが就任され、「お金にならない仕事もやっていくものだ、と先輩に言われた」とおっしゃっていたのが印象的でした。残念ながら、会員増加や学生への取り組みについてはお聞きする時間が取れませんでした。ちょうど、同日の同時間帯に校友会の総会もやられていたようです。青学の校友会ではWebサイトのリニューアルが行われ、会員登録、メール配信、などの機能が充実されたとの報告がなされていました。この点は、我々の方が取り組みは進んでいる印象を受けました。

最後のほうに、今年の全国会計人会サミットの主催会である慶応大学三田会税理士会より案内がありました。テーマは気候変動と環境税だそうです。会計士の視点ではTCFDまで踏み込んでほしいところですが。どんな内容になるのかは気になるところです。（写真は、左から、河西、青学会計人クラブの岩田会長）

●専修大学会計人会　太田荘一（昭和52年卒）

2023年10月27日（木）に神田の専修大学新校舎140周年記念館で行われた専修大学会計人会の総会懇親会に参加出席して参りました。



専修大学会計人会の総会は今年で第60回記念大会ということで、日本公認会計士協会茂木会長はじめ多数の来賓の臨席の下、盛大に開催されました。参加者全員の記念撮影に始まり、司会者は専修大学出身の漫才コンビで余興という力の入れようで、昨年、商学部を生田から神田に移転し、昨年の合格者も24名ということでしたので、勢いを感じました。また、12年にわたり会長を務められた吉田前会長の永年貢献表彰（左の写真は、現榎本会長と吉田前会長）も行われ、非常に参考になりました。（右の写真は、太田と同期の遠藤副会長）

●簿記チャンピオン大会　鵜藤葉子（平成14年卒）

2002年経営学部卒業の鵜藤と申します。2023年11月11日（土）に市谷キャンパス富士見ゲートで開催された簿記チャンピオン大会の懇親会に参加させて頂きました。簿記チャンピオン大会はHAPP（会計専門職講座）1年生の2級相当の大会です。成績上位者には会計士試験短答受験を要件に奨学金が支給されるものです。

会場のカフェテリアつどいは、普段は学食のようでしたが、テラスがあり、おしゃれな雰囲気でした。自分の中にある法政大学のイメージとは異なり、意味もなくそわそわしてしまいました。同席となった1年生の女性2人も普段とは異なる人間との同席にそわそわしているように見えました。雑談しながら、聞いてみると、会計士試験の勉強をすべきか否かを悩んでおりました。「せっかくの学生生活をほぼ勉強に費やす方がいいでしょうか。」「半端に勉強して結局受からない可能性もありますよね。」と回答に困る質問を投げかけられました。同席の学生合格のHAPP講師がさくさく回答しており、「1日7時間を2年間勉強すれば大丈夫だよ。」と正論で説得してくれました。学生時代に頑張っても早起きできず、7時間も勉強できなくて、結果として長い期間を勉強に費やした思い出が蘇りました。中途半端ではなくやるならやるで、短期間で受かった方がいいと強くお伝えしてみました。悩んだ様子で「頑張ってみます。」と言った表情が甘酸っぱい青りんごのように瑞々しく、何だかうらやましくなりました。

懇親会は太田先生のエールで無事締められました。頑張れHAPPの学生！！

●第25回全国大学会計人会サミット　飯塚　昇（昭和49年卒）

令和 5年11月10日（金）、「第25回全国大学会計人会サミット」が慶應義塾大学三田キャンパスにて、主催・税理士三田会、協力・公認会計士三田会で行われました。

サミット会議のテーマは「地球温暖化と対処法を考える　―環境税はどこまで貢献できるか―」で、慶応義塾大学・伊藤公平塾長などの来賓を含む90名の方々が参加、パネルディスカッション形式でしっかりした講演と熱心な質疑のあと、サミット宣言が採択され閉会となりました。

法政大学から、法政会計人会の高田住男会長ほか3名、公認会計士法友会は私・飯塚、計 5名が参加いたしました。

サミット会議後、甲子園優勝校の慶応義塾高等学校野球部が獲得した深紅の大優勝旗を福沢記念館で見学、懇親会では、高校同級生の富士大学出身の税理士にばったり、興味深いサミット会議テーマにその後の出来事が重なり、思い出に残るサミット会議になりました。

公認会計士法友会

公認会計士法友会事務局
〒169-0074
東京都新宿区北新宿4-19-15

E-mail：hosei.hoyukai@gmail.com

母校の発展と後進育成への貢献を
目指して活動しています。

12月末現在の会員数 782名

ホームページもご覧下さい。
http://hoyukai.la.coocan.jp/

編集後記

今年も箱根駅伝の応援に近くの沿道まで行ってきました。通過予定時刻の30分ぐらい前から待っているのですが、往路は混んでいなかったのに、復路はとても混んでいました。写真は、復路で國學院大學と抜きつ抜かれつの走りをしている場面です。

今後のイベント予定
皆さん、ご予定ください。
・公認会計士試験合格祝賀会　令和6年（2024年）1月27日（土）

物故者について
今年度において、下記の会員の方が永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。
故 野下 邦夫(昭和32年卒)

● 法政士業の会よりお願い
法政大学校友会では、卒業生等が経営している（関係している）お店を「法政オレンジMAP」にて紹介しています。しかし、士業の方の登録がほとんどありません。
ぜひ、登録いただければと思います。下記URLの法政オレンジマップのサイトから店舗情報入力フォーム へ進んでください。
https://hoseinet.or.jp/orangemap/

令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日） 年度会費及び寄付金のご協力のお願い

法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われておりますが、合格祝賀会などの行事開催費、通信費などの運営諸経費、友好他大学会計士会団体への参加費等の支出、また最近では、法政大学の公認会計士試験現役受験生の合格を支援する「奨学支援金」の原資として経常的な資金が必要であり、会員各位のご理解とご協力なくしては、持続的な活動が出来ません。

最近、会費及び寄付金を納めていただける方が固定化し、また、減少傾向にあります。一方、会員の増加で定期総会や合格祝賀会のご案内にかかる通信費の増大や「奨学支援金」の拡充等も必要となっております。会員の皆様の、ご理解とご協力を強くお願いする次第です。

今年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）会費の納入と寄付金のお願いをさせていただきたく、郵便振替口座振込用紙を同封させていただきました。

毎年の年度会費及び年度寄付金に、いったいいくら納入すればよいのか分からないなどのご意見・質問が寄せられます。法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金の納入で支えられていますが、皆様に大きな負担を感じさせるのは本意ではありません。あくまでも会員の皆様のご厚意にお願いするものであります。

年度会費を納入されていない方につきましては、年度会費の5,000円だけでも結構ですし、年度寄付金・奨学支援金等の寄付金として10,000円（一口）だけを納入していただいても結構です。

もし、ご賛同をいただけるのであれば、年度会費と寄付金を合わせて15,000円を納入していただければ、大変、助かります。

振込先を記入した郵便振替口座用紙を同封させていただきましたが、銀行振込をされる場合は下記の口座にお願いいたします。

銀行口座　三菱UFJ銀行　東中野支店(店番152)　普通預金・口座番号　1559256　口座名・公認会計士法友会
＜連絡先＞　〒169-0074　東京都新宿区北新宿４－１９－１５　正和ハイツ
公認会計士法友会事務局　080-8886-0375 / hosei.hoyukai@gmail.com

Books!

Pythonではじめる 会計データサイエンス　/　著者：稲垣 大輔（平成27年卒）出版：株式会社中央経済社
執筆者からの一言
本書は会計×データサイエンスをテーマにした入門書になります。昨今のテクノロジーの進化は著しく、テクノロジーにより生成されるデータを活用した意思決定がより重要になっております。会計人材がデータサイエンスを学ぶのに役立つ書籍ですので、是非とも本書を用いて学んでほしいです。

※現在、書籍の受入は中止しております。この場合でも、出版情報は引き続き掲載したいと思いますので、お寄せいただきますよう、お願いいたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。